

カンボジアで活躍する鹿児島県関係者

(財)自治体国際化協会シンガポール事務所 内山一弘



▲水面に映るアンコール・ワット。

私が勤務する(財)自治体国際化協会シンガポール事務所はアセアン10カ国とインドを担当地域としており、私はそのうちの一つ、カンボジアを担当しています。カンボジアというと、アンコール・ワットを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。アンコール・ワットに代表されるアンコール遺跡群は1992年、世界遺産に登録され、カンボジアの観光の目玉となっています。

カンボジアは1953年にフランスから独立した後も、内戦などの混乱が長い間続いていましたが、1991年のパリ和平協定、1993年の総選挙を経て、ようやく平和を取り戻すことができました。しかしながら、内戦中には多くの知識人や罪のない市民の殺戮、歴史的価値の高い建造物の破壊や資料の破棄などが行われ、これまでカンボジアで培われてきた伝統や文化が今も失われていく危険にさらされています。アンコール遺跡群もそのうちのひとつで、現在、日本など世界8カ国の外国チームが遺跡修復活動を行っています。1980年、当時鹿児島大学の教授であった石澤良昭さん(現上智大学学長)は、争乱の最中にあったカンボジアを訪れ、荒廃した現状を憂慮し、自ら先頭に立ち遺跡修復に力を注ぎてきました。このほかにも図書館司書や警察の科学捜査分析、青少年活動といった国際協力の分野で、鹿児島県出身者が活躍しています。鹿児島から遠く離れたカンボジアで、理想や情熱を持って仕事に取り組んでいる県出身者の姿は同郷の者として誇らしく、とても輝いて見えます。

カンボジアに限らず、東南アジア各地ではビジネスなどの分野でも県関係者が活躍しています。異国の地で悪戦苦闘しながら活動する県関係者の姿を一人でも多くの県民の方に知っていただければと思います。



▲王立ブノンベン大学フンセン図書館の司書として活躍されている県出身者川畑恵子さん。

PRESENTS

プレゼントコーナー

「鹿児島の特産品」

県内各地の“スペシャル”な特産品をプレゼントします。



枕崎ぶえん鯉・タタキセットを抽選で3人の方にプレゼント。



枕崎は350年以上の歴史を誇る“かつおのまち”。日本で最初に黒潮へ船を乗り入れたといわれる薩摩の漁師たちの伝統を現在に受け継ぐ。昔ながらの勇壮な一本釣りでのり上げられた鰹は急速冷凍され、取れたての鮮度を保ったまま水揚げ。厳格な温度管理のもと冷凍のまま加工され、旬の味を届けてくれる。

【枕崎市漁業協同組合】

〒898-0093 枕崎市仁田浦町161
TEL 0993 (76) 3111 FAX 0993 (76) 3115

- 応募方法／ハガキ、FAXまたは電子メールに「グラフかごしま」に関するご意見・ご感想、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号をご記入の上、下記までお送りください。いただいた個人情報は、プレゼントの送付以外の目的には利用しません。※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- ハガキ宛先／〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県庁広報課「グラフかごしまプレゼント」係
- FAX／099 (286) 2119
- メールアドレス／h-kikaku@pref.kagoshima.lg.jp (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

【締切】平成20年2月29日(金)必着